

2021 年度

# アカコッコ保護事業報告書



伊豆諸島とトカラ列島のみには生息する日本固有種で環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類に選定されているアカコッコの個体数の増加を目的に、日本野鳥の会はアカコッコ保護事業として、2012年から重要な繁殖地である東京都三宅島を中心に調査や環境整備、普及教育活動などを行なっています。2021 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して実施しました。

## トピックス

### ◆2021 年も幼鳥がたくさんいました

今年も 7 月中旬に、アカコッコの周年の生息地を調べることを目的に、GPSロガーをつけるための捕獲調査を行ないました。この調査では、その年に巣立った幼鳥も捕まるので、調査1日あたりに捕獲されたアカコッコの成鳥と幼鳥の数を調べてみました。

すると、2020 年に続き幼鳥の数が以前と比較して多くなっていました。一方、やはり成鳥の数はそんなに変わりませんでした。多くの幼鳥が育つことができたのは、とてもよい傾向だと思います。噴火後の森の回復は徐々に進んでいますが、急激な変化があった様子はなく、原因ははっきりとは分かっていません。この 2 年の変化が今後も続くのか注意深く見ていきたいと思っています。

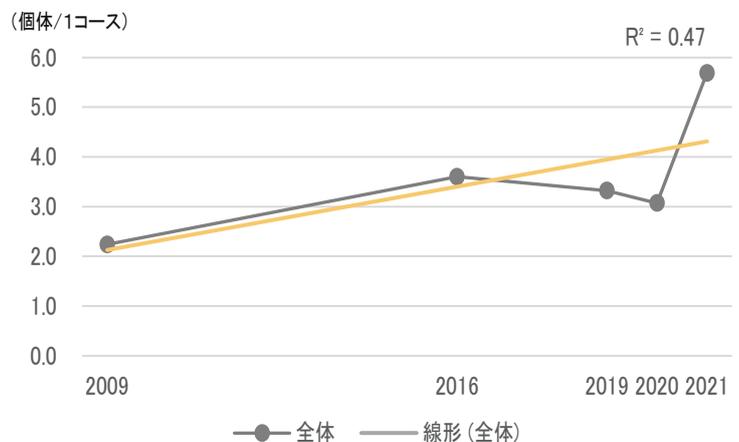


### ◆三宅島のアカコッコは増えているのか減っているのか

三宅島では、島民の方と一緒に繁殖期である 5 月に全島で個体数調査を行なっています。山頂噴火後の 2009 年にはじめたこの調査は、今回で 5 回目になります。2020、2021 年はコース数を減らした縮小版で実施しました。

推定個体数は、4,400 羽、7,800 羽、7,600 羽、5,900 羽と増減してきましたが、今回初めて 12,200 羽と 1 万羽を超えました。1 コース当たりの個体数を確認したところ、全体では、弱くですが増加傾向がみられました。

環境区分ごとに、1 コース当たりの個体数を見たところ増加傾向を示す環境区分はありませんでした。反対に、アカコッコが好むと考えられる緑の多い市街地において、顕著な減少傾向が見られているため、原因を調べていきたいと考えています。

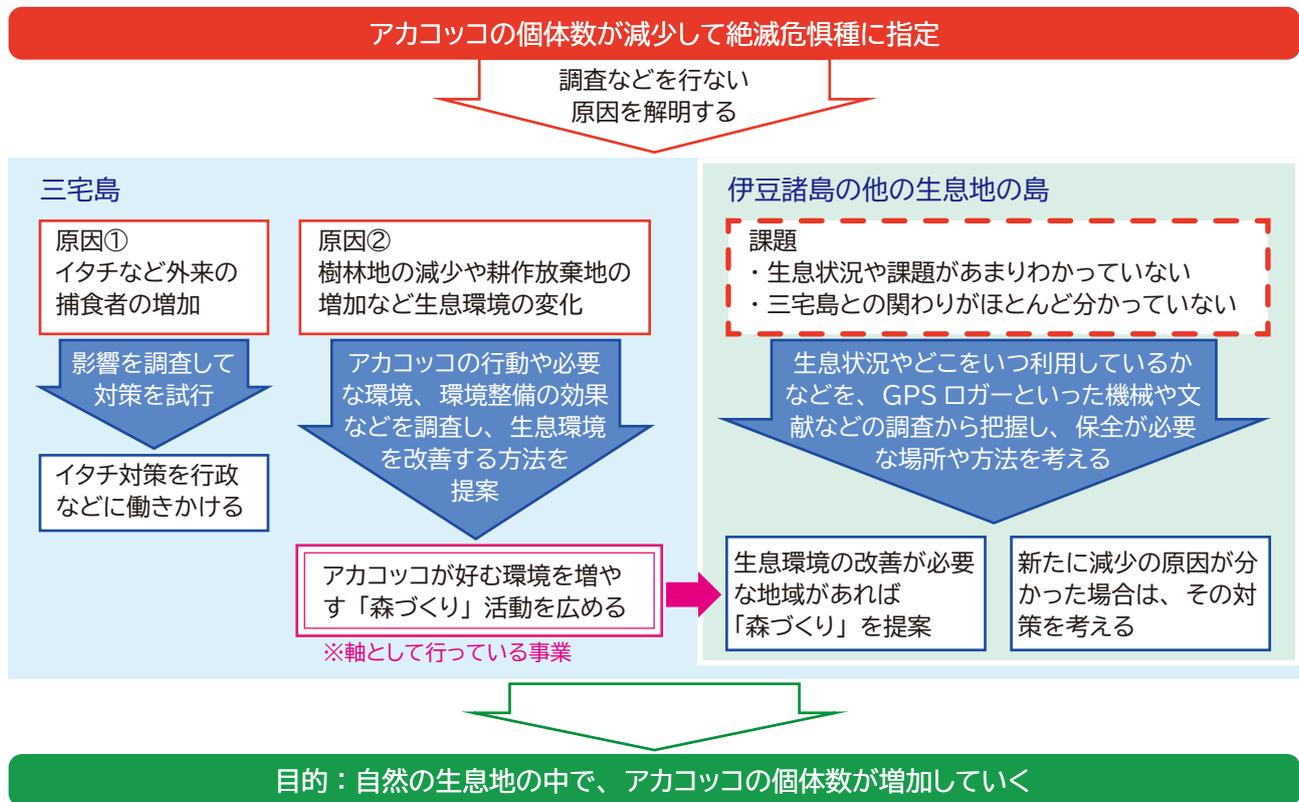


全コースで確認されたアカコッコの平均個体数

本事業は手島基金を基に実施しています

## 目 標

- ・アカコッコの生息地を増やすための森づくりモデルの確立と普及
- ・三宅島における森づくり作業の実施
- ・外来捕食者（イタチ等）への対策



## 主な活動

2012年

保全計画の作成、次年度以降の調査計画等準備

2013年～2020年

カラーリングを用いた繁殖期の行動圏面積の推定

森林内の下草管理区域のアカコッコによる利用状況の調査

三宅島でアカコッコ総個体数調査を実施

アカコッコの森復活大作戦のリーフレットの配布とイベントの開催

アカコッコの利用地域の解明に向け、GPS ロガーを回収、新たに装着

環境省により国内希少野生動植物種に指定（調査結果などを基に当会が要望）

2021年

5月11、12日 三宅島のアカコッコの個体数推定のための調査の実施

（アカコッコ館職員と島民で実施）

7月16～21日 アカコッコの利用地域の解明に向け GPS ロガーを回収



本事業は手島基金を基に  
実施しています

公益財団法人日本野鳥の会 自然保護室  
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル  
電話：03-5436-2634  
発行：2023年2月28日